

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年3月14日

事業所名: 放課後等デイサービスセンターこころね

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			パーティーや家具量で境界を作り活動を分けている。	利用される方の特性に合わせて、都度環境作りを行う。
	2	職員の配置数は適切である	○			安全を第一に活動内容に合わせて職員・支援者を増員している。	活動に合わせ法令で定められている支援者以上の配置を行って事故防止に努めていきたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○				手すり等はないが、手すりが必要な利用者様には付き添い支援を行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			定期的な課題を支援者間で共有し、チーム支援を念頭に置いて取り組んでいる。	職員のみならずパート支援者にも役割を配し業務に参画しやすい環境づくりを目指し仕事量の偏りがないようにも努めている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			忌憚ない意見を頂けるように信頼関係を築く様に務めている。	毎年の同じ内容のアンケートとなっているので評価は頂くがコメントが少なくなってきたのでコメントが貰えるようにアナウンスに工夫をする。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			HPにて公開	https://www.kokorone0701.com/
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			今年は事例検討、ASD勉強会も開催した。虐待・身体拘束の研修も分けて研修している。	職員のみならず、パート支援者にも研修に参加するだけでなく研修会を開く機会を設けたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			モニタリング、アセスメントを重ね作成。	来年度からはより一層五領域を意識し計画する必要があると強く感じている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			オリジナルのアセスメントシートを使用。	他事業所のアセスメントシート等で良いところは真似して更新してゆきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			利用者の特性や心理状態をそれぞれの支援者が持ちよりチームで支援内容を決めている。	支援の振り返りを支援者間で共有して、次のプログラムを練りなおす様にしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			活動内容の振り返りを行い固定化しないように努めている。	常に「やってみたい！」を育む支援を目指し「やってみたい」を支援するように支援者全員に共通認識するようにしていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			四季、季節を感じたり学齢期に必要な経験等が出来る様にサービス提供している。	今後も常日頃から利用者様の「やってみたい」を傾聴し、保護者様からの要望も汲み入れ長期休暇時、放課後時に振り分け企画していきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			5領域を意識しながら立案するように努めている。	支援者間でも5領域を意識しながら日常生活動作の獲得に繋がるように
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			開始前に流れや役割を確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			翌朝になる事も有るが情報を共有してる。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			記録を取り、モニタリング時等にも振り返りを行っている。	今後の支援のヒントとなる事等も記録するので記録は今後も丁寧に取り組みたい。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			モニタリングの結果を踏まえて個別支援計画を立案している。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			日常生活動作の活動を提供しやってみる、失敗した、等経験値の獲得を意識し支援してる。	調理活動、外食練習、ワークショップに参加し社会体験したりミュージック・ケアや畑活動・清掃・買い物等日常生活に重点を置き多方面から支援を組み立てようと考えている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児発管の他に必要に応じ児童指導員も参加している。	必要な支援者が参画するように周知している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			引継ぎ時に情報を共有している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○		看護師不在の為、医ケアが必要な利用者の受け入れに踏み切れていない。必要に合わせて体制を整えたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			出来る範囲で就学前の計画書や検査結果等を共有している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			○	求めに応じて情報提供している。	来年度も対象者が現段階では居ないが移行支援会議で情報を共有出来るように準備はしておきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			必要に応じて研修に参加したり助言を求めている。	今後も継続して助言を求めたり研修に参加したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○	他の放デイとの交流会は有るが児童クラブとは無い。	今の所予定はしていないが必要に応じて企画を進めたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			○	必要ならぜひ参加してゆきたい。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時や連絡帳を用いて情報の共有を行っている。	保護者様アンケートでも100%共通理解を持っていると返信頂いているので来期も継続したい。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○	昨年に続き社内研修をしているが実施までには至っていない。	研修を重ねペアトレが出来る迄の力を蓄えたいが難しさを実感している。継続して研修したい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に一通り説明しているが求めに応じて丁寧に伝えている。	来年度は報酬改定も有るので再度正しく運営規定や個別支援計画等の説明もしっかりと行いたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			求めに応じて助言したり、保護者会で悩み相談会を開催した。	来年度も適切な支援が出来るように支援者の研修などを行い保護者様の相談に応じられる様に努める。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			保護者会を今年度初めて開催する事が出来た。	来年度も継続して保護者様からの意見を元に
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情対応体制を機能させ、迅速且つ適切に事実を把握し正しく対応すべく心掛けている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			季節ごとに年四回機関紙を発行し行事や研修等を掲載している。	
	35	個人情報に十分注意している	○			個人情報の大切さを支援者全員に伝え説明している。	個人情報の扱いについて、再度正しく理解出来るように時間をとって
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			必要に応じて別途時間を設けたり場所を移して配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	例年、地域の方に畑作業のアドバイスをもらったり注連縄作りの土台を作ってもらった。又、保護者会で地域の方を後援者として迎え地域を意識している。	事業所の行事も地域の方々への参加を意識しながら企画していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している			○	職員には周知している。	保護者への周知に関してはどのように通知していく事が最善か、最善策を考える。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			水害、火災、地震の三種に分けて避難訓練している。	BCPとも連携させて安全を確保出来るように訓練の計画を立てる。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			外部講師を招き虐待防止等の研修会を開催している。又毎月の定例ミーティングの中で虐待防止についても触れ振り返る時間を設けている。	今後も継続して虐待防止のアンケートを定期的に実施して自身を振り返る機会を確保していく。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			個別支援計画に急な飛び出し等で一時的に拘束する場合は保護者に面談時に説明をしている。	今後も発達段階に合わせて保護者に状況説明を行った上で拘束は必要最低限で抑えられる様に支援の環境整備を行う。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				○	医師の指示書を必要とする利用者がいない。	保護者様から細かく指示を頂いたり質問をしたりして必要に応じて医師の指示書を要請する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				定期的にヒヤリハットを振り返り再発防止に努めている。	多忙でヒヤリハットの記入が少ない時は敢えて支援者間でヒヤリハット記入を声に出して記入を怠らない様にして事故や虐待防止に役立てる。